

## 波多野 澄雄 先生

### 業績目録



|                      |    |
|----------------------|----|
| 学歴                   | 5  |
| 職歴                   | 5  |
| 学会活動                 | 5  |
| 社会的活動                | 5  |
| 科学研究費補助金・学術共同研究（代表者） | 6  |
| 授賞歴                  | 6  |
| 著作一覧〔辞典類、新聞記事は省略〕    | 7  |
| 単著                   | 7  |
| 共著・共編著               | 7  |
| 分担著                  | 7  |
| 学術誌論文                | 9  |
| 調査研究報告書              | 10 |
| 史料編纂・目録              | 11 |
| 翻訳                   | 11 |
| 主な研究報告・講演            | 12 |
| 書評                   | 13 |
| その他                  | 13 |
| 学内誌記事                | 14 |

## 学 歴

1947年7月 岐阜県生まれ  
1963年4月 岐阜県立岐南工業高校(電気科)入学  
1966年3月 同上 卒業  
1966年4月 防衛大学校入学  
1968年3月 同上 退学  
1968年4月 慶應義塾大学法学部政治学科 入学  
1972年3月 同上 卒業  
1972年4月 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程政治学専攻 入学  
1974年3月 同上 修了  
1974年4月 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程政治学専攻 入学  
1977年3月 同上 単位修得退学  
1996年9月 博士(法学) 慶應義塾大学

## 職 歴

1972年6月～1979年3月 外務省外交史料館非常勤職員(「日本外交史辞典」編纂委員会助手)  
1979年4月～1983年6月 防衛庁防衛研修所(現・防衛省防衛研究所) 助手  
(1982年11月～1983年8月 コロンビア大学東アジア研究所 客員研究員)  
1983年7月～1988年3月 防衛庁防衛研修所戦史部 所員  
1988年4月～1998年1月 筑波大学助教授(社会科学系)  
(1996年11月～1997年8月 ハーバード大学ライシャワー記念日本研究所 客員研究員)  
1998年2月～2004年4月 筑波大学教授(社会科学系)  
2000年4月～2003年4月 筑波大学大学院国際政治経済学研究科長  
2001年4月～2003年4月 筑波大学大学院人文社会科学研究科国際政治経済学専攻長  
2003年5月～2007年3月 筑波大学大学院人文社会科学研究科長  
2007年4月～2009年3月 筑波大学理事・副学長(人事・評価担当)  
2009年4月～2010年3月 筑波大学大学院人文社会科学研究科教授兼学長補佐  
2010年4月～2012年3月 筑波大学附属図書館長

## 学会活動

日本国際政治学会会員 1976年～現在(事務局主任 1997～98年、理事 1998～2004年、運営委員 1998～2004年、国際学術交流委員会主任 2000～2002年、News Letter 委員会主任 2002～2004年)  
軍事史学会会員 1979年～現在(理事 1986～2004年、副会長 2009年～2011年)  
Association for Asian Studies(AAS) 2000年～現在  
アジア政経学会会員 1998年～現在

## 社会的活動

「日本外交文書」編纂委員(外務省、2003年4月～2009年3月)  
「日本外交文書」編纂委員会委員長(外務省、2009年4月～現在)  
アジア歴史資料センター諮問委員会委員(内閣府・国立公文書館、2005年～現在)

いわゆる密約問題に関する有識者委員会委員（外務省参与、座長代理、2009年11月～2010年3月）  
 外交文書欠落問題調査委員会委員（外務省参与、2010年4月～2010年6月）  
 日中歴史共同研究日本側委員（外務省、2006年12月～2009年3月）  
 外交記録公開に関する有識者諮問会議委員（外務省、2003～2004年）  
 大学評価・学位授与審査会専門員（大学評価・学位授与機構、2003～2005年）  
 大学評価委員会評価員（大学評価・学位授与機構、2003～2004年）  
 国立政治大学〔台湾〕外国語文学院日文系・外部評価委員（2007年7月）  
 教科用図書検定調査審議会臨時委員（文部科学省、2004年～現在）  
 昭和館運営有識者会議委員（厚生労働省、2003年～現在）  
 「慰安婦」問題資料専門委員会委員（女性のためのアジア平和国民基金、1996～1999年）  
 日本学術会議政治学連携研究委員（日本学術会議、1995年10月～98年10月）

#### 科学研究費補助金・学術共同研究（代表者）

基盤研究（A）『「政府間和解」と歴史問題に関する基盤的研究—戦争賠償の再検討を中心に』  
 課題番号22243016（2010～2013年度、代表）  
 基盤研究（C）「経済成長とアジア関与をめぐる戦後日本外交のジレンマ」課題番号17530120  
 （2005～2006年度、代表）  
 基盤研究（C）「戦後日本の東南アジア政策の形成—「地域外交」の模索」課題番号9620060  
 （1997～1998年度、代表）  
 日中戦争に関する国際共同研究（ハーバード大学アジアセンター主催、代表者：エズラ・ボー  
 ゲル、山田辰雄、2000～2009年）日本組織委員会代表委員  
 日中戦争（1931～1945）に関する国際共同研究（「日中平和友好交流計画 歴史研究支援事業」  
 （日中友好会館、2002～2003年度、代表）

#### 授賞歴

阿南研究奨励賞（軍事史学会）：1984年5月  
 1991年度吉田茂賞（吉田茂国際基金）：1992年3月  
 1996年度吉田茂賞（吉田茂国際基金）：1997年3月

（以上2012年1月23日現在）

## 著作一覧

〔辞典類、新聞記事は省略〕

### 単著

- 『国家と歴史—戦後日本の歴史問題』中央公論新社、2011年  
『歴史としての日米安保条約』岩波書店、2010年  
『太平洋戦争とアジア外交』東京大学出版会、1996年〈吉田茂国際基金「吉田茂賞」〉  
『幕僚たちの真珠湾』朝日新聞社、1991年〈吉田茂国際基金「吉田茂賞」〉  
『「大東亜戦争」の時代 日中戦争から日米英戦争へ』朝日出版社、1988年

### 共著・共編著

- 波多野・佐藤晋（共著）『現代日本の東南アジア政策、1950—2005』早稲田大学出版部、2007年  
波多野・戸部良一編『日中戦争の国際共同研究2 日中戦争の軍事的展開』慶応義塾大学出版会、2006年（分担「日本陸軍の戦略決定、1937—45」）  
波多野編『池田・佐藤政権期の日本外交』ミネルヴァ書房、2004年  
平間洋一、イアン・ガウ、波多野編『日英交流史 1600—2000 3 軍事』東京大学出版会、2001年（分担「対英戦争と『独立工作』—シンガポールからインパールへ—」）  
細谷千博、入江昭、後藤乾一、波多野編『太平洋戦争の終結』柏書房、1997年（分担「戦時外交と戦後構想」）  
H・クラインシュミット、波多野編『国際地域統合のフロンティア』彩流社、1997年（分担「アジア太平洋の地域主義と日本」）  
増田弘・波多野編『アジアのなかの日本と中国』山川出版社、1995年（分担「日中戦争の遺産と負債」）  
細谷千博・入江昭・本間長世・波多野編『太平洋戦争』東京大学出版会、1993年（分担「開戦過程における陸軍」）  
栗原健・波多野編（江藤淳監修）『終戦工作の記録』上・下、講談社、1987年

### 分担著

- 「日中歴史共同研究—課題と展望」（黒澤文貴・イアン・ニッシュ編『歴史と和解』東京大学出版会、2011年）  
Japan-China Joint History Project, *Modern and Contemporary History, Vol.1*, 2011. [以下の2章を担当]  
Part II, Chap.2 'The Sino-Japanese War of 1937-45: Japanese Military Invasion and Chinese Resistance' (coauthored with Jun'ichiro Shoji)  
Part II, Chap.3 'The Sino-Japanese War and the Pacific War'  
「日中戦争—日本軍の侵略と中国の抗戦」（共著）（『日中歴史共同研究 第1期報告書』外務省アジア・大洋州局、2010年3月）  
「日中戦争と太平洋戦争」（単著）（同上）  
「日本陸軍内部之戦略決定」（楊天石他編『中日戦争国際共同研究之二 戦略与歴次戦役』社会科学文献出版社、2009年）〔中文〕  
‘Soviet Entry into the War and the A-Bomb: Of Equal Importance’, in Tsuyoshi Hasegawa ed., *The End of the Pacific War: Reappraisals*. Stanford University Press, 2007

- 「日本外交におけるアジア主義の機能」（進藤栄一・水戸考道編『戦後日本政治と平和外交』法律文化社、2007年）
- 「東アジア共同体における『歴史和解』への道」（進藤栄一編『「東アジア共同体」を構想する』日本経済評論社、2006年）
- 「遺族の迷走－日本遺族会と記憶の競合」（細谷千博、入江昭、大芝亮編『記憶としてのパールハーバー』ミネルヴァ書房、2005年）
- 「『歴史和解』への道標－戦後日本外交における『歴史問題』」（添谷芳秀・田所昌幸編『日本の東アジア構想』慶応義塾大学出版会、2004年）〔三谷博編『日本の教育と社会6 歴史教科書問題』日本図書センター、2007年に再録〕
- 「『国家平等論』を超えて－『大東亜共栄圏』の国際法秩序をめぐる葛藤」（浅野豊美・松田利彦編『植民地帝国日本の法的展開』信山社、2004年）
- ‘The Anglo-Japanese War and Japan’s Plan to “Liberate Asia”, 1941–45’ in Yoichi Hirama & Ian Gow eds., *The History of Anglo-Japanese Relations, 1600–2000*, Vol.3, Palgrave, 2003.
- 「日本の視点－陸軍にとっての『真珠湾』」（五百旗頭真・北岡伸一編『開戦と終戦－太平洋戦争の国際関係』情報文化研究所/星雲社、1998年）
- 「戦後日本のアジア外交」（斎藤元秀編『東アジア国際関係のダイナミズム』東洋経済新報社、1998年）
- ‘Japanese-Soviet campaigns and relations 1939–45’, in *The Oxford Companion to the Second World War*, Oxford University Press, 1995.
- 「吉田茂の親英・親米について」（吉田茂国際基金編『歴史としての吉田時代－今、吉田茂に学ぶもの』中央公論新社、2009年）
- 「東久邇稔彦」（渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』中央公論社、1995年）
- 「東條内閣の成立」（近藤新治編『近代日本戦争史 第4巻』同台経済懇談会、1995年）
- 「『不平等』の構図－安全保障をめぐる日米関係」（花井等・浅川公紀編『戦後日米関係の軌跡』勁草書房、1995年）
- ‘The Japanese Navy and the Development of Southward Expansion’, in S. Sugiyama, M. Gurello eds., *International Commercial Rivalry in Southeast Asia in the Interwar Period*, Yale University Press, 1994.
- ‘Wilsonianism in Wartime Japan and its Legacy’, in Harald Kleinschmidt (ed.), *Why Global Uniformity?: Proceedings of the Second Workshop on the Special Research Project on the New International System*, University of Tsukuba, 1994.
- 「抑止戦略の破綻」（現代アジア研究会編『世紀末から見た大東亜戦争』プレジデント社、1991年）
- 「日米開戦までの軌跡」（秦郁彦編『真珠湾燃える』上、原書房、1991年）
- 「吉田茂と再軍備」（吉田茂記念財団編『人間・吉田茂』中央公論社、1991年）
- 「吉田巡閲使の周辺」（同上）
- 「国防構想と南進論」（『講座・東南アジア学10 東南アジアと日本』弘文堂、1991年）
- Peter Lang, David Pike eds., *The Opening of the Second World War*, Longman, 1991〔以下、2編を収録〕
- ‘The Japanese Reaction to the Hitler-Stalin Pact’.
- ‘The Nippo-Soviet Rapprochement and Japan’s Southward Advance’
- 「歴史学から見た国際関係」（佐藤英夫編『国際関係入門』東京大学出版会、1990年）
- ‘The Japanese Decision to Move South (1939–1941)’ (coauthored with Sadao Asada), in Robert Boyce and Esmonde Robertson eds., *Paths to War: New Essays on the Origins of the Second World War*, St. Martin’s Press, 1989.

- 『大東亜戦争』の時代』（江藤淳監修『昭和史 その遺産と負債』朝日出版社、1989年）
- 「日本海軍と南進政策の展開」（杉山伸也、イアン・ブラウン編『戦間期 東南アジアの経済摩擦』同文館出版、1989年）
- Sadao Asada ed., *Japan and the World, 1853–1952; A Bibliographical Guide to Recent Japanese Scholarship*, Columbia University Press, 1989: [以下の4章を担当]
- ‘The Japanese Foreign Policy, 1931–1945: Historiography’
- ‘From the Manchurian Incident to the Sino-Japanese War’
- ‘From the Sino-Japanese War to the Pacific War’ (coauthored with Sadao Asada)
- ‘The Pacific War, 1941–1945.’
- 「日本陸軍の中国認識」（衛藤藩吉、井上清編『日中戦争と日中関係』原書房、1988年）
- 「有田放送（1940年6月）の国内的文脈と国際的文脈」（近代外交史研究会編『変動期の日本外交と軍事』原書房、1986年）
- ‘The Politics of Surrender; The Japanese Side’, *Kyoto American Studies Summer Seminar, Special Conference, 1986* (Doshisha University, 1986).
- 「対外紛争史の周辺」（五味俊樹・長谷川雄一編『日本外交と対外紛争』れんが書房新社、1984年）
- 「戦争指導と対外政策の形成過程、1941～1945」（『戦争終末期における外交と軍事』（研究資料83RO、防衛研修所、1983年）
- 「1935年の華北問題と上海武官」（岩倉規夫・大久保利謙編『近代文学への展開』柏書房、1982年）
- 「幣制改革への動きと日本の対中政策」（野沢豊編『中国の幣制改革と国際関係』東京大学出版会、1981年）
- 『東亜新秩序』と地政学』（三輪公忠編『日本の1930年代』創流社、1980年）
- 「歴史研究 日本外交史」（日本国際政治学会編『戦後日本の国際政治学』有斐閣、1979年）

#### 学術誌論文

- 「日中共同歴史研究一成果と課題」『抗日戦争研究』2011年第1期〈中文〉
- 「太平洋戦争史研究の現在—帝国論と『大東亜戦争』をめぐる」(『軍事史学』46巻1号、2010年6月)
- 「日本現代史研究の現状と課題」(『外交史料館報』22号、2010年3月)
- 「日中間の『歴史和解』を求めて」(『栃木史学』23号、2009年3月)
- 「対米開戦と中国問題」(東アジア近代史学会『東アジア近代史』第12号、2009年3月)
- 『『地域主義』をめぐる日本外交とアジア』(『国際問題』578号、2009年1月)
- 「日本の情報公開制度と公文書館」(台湾・国立政治大学『政大日本研究』第3号、2006年1月)
- 『『機密戦争日誌』にみる開戦経緯』(『アーカイヴズ』27号、2006年)
- 「戦後アジア外交の理念形成—『地域主義』と『東西のかけ橋』」(『国際問題』546号、2005年9月)
- 「アジア・モデルとしての『吉田ドクトリン』」(佐藤晋と共著) (『軍事史学』39巻4号、2004年3月)
- 『『大東亜戦争』の戦後—遺族の迷走』(『軍事史学』36巻3—4合併号、2001年3月)
- 「戦時外交と外務省」(『外交史料館報』14号、2000年6月)
- 『『無条件降伏』と日本』(慶応大学『法学研究』73巻1号、2000年1月)
- 『『負の遺産』の克服』(『外交時報』1345号、1998年2月)
- 「戦時宰相としての東條英機」(『国学院大学日本文化研究所報』198号、1997年9月)
- 「近代日本の『南方関与』」(鹿児島大学南太平洋海域研究センター『南太平洋海域調査報告』29

- 号、1996年8月)
- 「朕ハ茲ニ国体ヲ護持シ得テ『国体護持』とポツダム宣言一」(『外交時報』1320号、1996年7月)
- 「鈴木貫太郎の終戦指導」(『軍事史学』31巻1・2号、1995年9月)
- 「コロombo・プラン加入をめぐる日米関係」(同志社大学アメリカ研究所編『同志社アメリカ研究別冊14』、1995年)
- 「『地域主義』構想の戦前・戦中・戦後」(『総合的地域研究』第11号、1995年12月)
- 「重光葵と大東亜共同宣言—戦時外交と戦後構想」(『国際政治』109号〈終戦外交と戦後構想〉、1995年5月)
- 「戦時日本のWilsonianismとその国内的文脈」(『筑波法政』18号、1995年5月)
- 「東南アジア開発をめぐる日・米・英—日本のコロombo・プラン加入を中心に—」(『年報・近代日本研究』16号、1994年11月)
- 「広田・マリック会談と戦時日ソ関係」(『軍事史学』29巻4号、1994年3月)
- 「戦後日本政治と自民党」(韓国・啓明大学校『日本学誌』14輯、1994年2月)〔韓国語〕
- 「俘虜と文化接触」(筑波大学1920年代研究会編『1920年代の都市と農村』1993年3月)
- 「日米開戦と『国力』」(『新防衛論集』19巻4号、1992年3月)
- 「『真珠湾への道』再考」(『外交時報』1234号、1991年11月)
- 「『再軍備』をめぐる政治力学—防衛力『漸増』への道程」(『年報・近代日本研究』第11号〈協調政策の限界〉、1990年11月)
- 「第2次大戦50周年と軍事史研究」(『軍事史学』26巻2号〈第2次世界大戦と日本—開戦への道程〉、1990年9月)
- 「満州事変取捨の政治過程」(蒲島郁夫と共著) (『レヴェイアサン』第8号、1990年4月)
- 「『陸軍中央幕僚群』の意識と行動—1939—1941年」(『日本歴史』通号501、1990年2月)
- 「満州事変と宮中勢力」(『栃木史学』第5号、1990年2月)
- ‘Japan’s Southward Advance and Her Rapprochement with the Soviet Union, 1939–41’ (『筑波法政』13号、1990年3月)
- 「独ソ不可侵条約と日本・ドイツ—第2次世界大戦50周年記念『パリ国際会議』に出席して」(『軍事史学』25巻3・4合併号、1990年3月)
- 「日中戦争から日英米戦争へ—最近の研究から」(『国際政治』91号、1989年5月)
- 「『南進』への旋回：1940年—『時局処理要綱』と陸軍」(『アジア経済』25巻5号、1985年5月)
- 「日本の戦争計画におけるソ連要因(1942—1945)」(『新防衛論集』12巻2号、1984年10月)
- 「重光葵とアジア外交」(上智大学外国語学部『国際学論集』10号、1983年1月号)
- 「対米開戦史研究の諸段階」(『軍事史学』17巻3号、1981年12月)
- 「日本の『新秩序』理念と戦争目的」(『新防衛論集』8巻3号、1980年12月)
- 「リース・ロスの極東訪問と日本—中国幣制改革をめぐる—」(『国際政治』58号〈日英関係の史的展開〉、1978年5月)
- 「満州国建国前後の鉄道問題—鉄道処理をめぐる関東軍、満鉄、満州国」(『軍事史学』12巻2号、1976年9月)
- 「太平洋戦争の終結と天皇制処理問題」(『昭和48年度法学研究科論文集』慶應大学、1974年3月)

### 調査研究報告書

- 「いわゆる密約問題に関する有識者委員会報告書」(外務省)〔第5章「沖縄返還と原状回復補償費の肩代わり」、補章「外交文書の管理と公開について」を担当〕、2010年3月
- 「経済成長とアジア関与をめぐる戦後日本外交のジレンマ」(平成18年度科学研究費〔基盤研究

C) 成果報告書)、2007年

- 「防衛庁防衛研究所所蔵〈衛生・医事関係資料〉の調査概要」(『「慰安婦」問題調査報告・1999」  
女性のためのアジア平和国民基金、1999年  
「戦後日本の東南アジア政策の形成—『地域外交』の模索—」(平成9～10年度科学研究費補助  
金〔基盤研究C〕成果報告書)、1999年  
「戦没者追悼平和祈念館(仮称)に係る米国の類似施設調査事業 事業実績報告書」(1996年9月)  
「戦時日本の地域主義と国際主義」(小島勝編『南方関与の論理〔科学研究費重点領域研究「総  
合的地域研究の手法確立」〕成果報告書シリーズ27) 1996年11月  
「戦後アジアの地域協力構想と日本」(平成3～4年度科学研究費補助金〔一般研究B〕「国家と  
地域統合に関する総合的研究」成果報告書、研究代表・H. クラインシュミット) 1994年

史料編纂・目録

- 『村上義一文書目録』(佐藤元英と共著「解説 満州事変前後の満鉄」)(雄松堂出版、2003年)  
『日中戦争関係中国語文献目録』(編集代表)(筑波大学人文社会科学研究科、2003年)  
『林出賢次郎関係文書 外務省外交史料館所蔵文書』(解説「中国とともに—『林出賢次郎関係  
文書』に寄せて—」)(雄松堂出版、2000年)  
『侍従武官長奈良武次日記・回顧録』(編集代表:波多野、黒沢文貴)全4巻(柏書房、2000年)  
軍事史学会編『大本営陸軍部戦争指導班 機密戦争日誌』上・下(編集代表:原剛・高橋久  
志・波多野)(錦正社、1998年)  
「奈良侍従武官長と昭和天皇」(波多野・黒沢文貴:編集・解説)〈正・続〉(『中央公論』1990  
年9月号、10月号)  
「東郷茂徳陳述録 第1～2回」(『外交時報』1231号、1985年12月;1233号、1986年3月)  
江藤淳編『占領史録』全4巻(以下、各巻の文書編纂、解説、補注を担当)(講談社、1981—  
1982年)[1995年、講談社学術文庫『占領史録』上下、として再刊]  
第1巻『降伏文書調印経緯』1981年刊  
第2巻『停戦と外交権停止』1982年刊  
第3巻『憲法制定経過』1982年刊  
第4巻『日本本土進駐』1982年刊  
「解説 後藤新平・スターリン会談記録」(『軍事史学』24巻3号、1988年12月)  
「日独伊三国同盟に関する若干の史料」(『軍事史学』20巻1号、1984年6月)  
「終戦史関係文献目録解題及び文献目録」(外務省編『終戦史録6』,新装版、北洋社、1978年)  
「村上義一文書(満鉄関係記録)文書目録」(『法学研究』49巻4号、1976年4月)

翻訳

- ヘンリー・フライ(Henry P. Frei)「“昭南”の降伏」(明石陽至編『日本占領下の英領マラヤ・  
シンガポール』、岩波書店、2001)。  
楊大慶「戦時日本の対華電気通信支配」(『軍事史学』33巻、1997年12月)  
汪熙「太平洋戦争と中国」(細谷千博ほか編『太平洋戦争』東京大学出版会、1993年)  
アレン・ホワティング「中国の影響」(池井優監訳『シベリア開発の構図』、日本経済新聞社、  
1983年)



## 主な研究報告・講演

- 「日本の情報公開と外交記録公開」(台湾・中央研究院近代史研究所、台北、2011年12月25日)
- 「沖縄返還と『議論の要約』について」、「『密約』調査と外交記録の公開」(日本国際政治学会 2010年度大会 共通論題報告、札幌、2010年10月30日)
- 「コロombo・プランと日本—東京会議を中心に—」(日本国際政治学会2010年度大会部会報告、札幌、2010年11月1日)
- 「問題提起1」(早稲田大学アジア研究機構 第7回国際シンポジウム「国民国家の歴史認識を超えて」早稲田大学国際会議場、2010年10月23日)
- 「日米『密約問題』の意味するもの」(国際文化会館、2010年9月3日)
- 「日中歴史共同研究をめぐって」(日本公益学会・国際文化学会共催研究会、2009年1月14日、早稲田大学)
- 「日本歴史研究の動向と課題」(第二回韓国世界政治学会、ソウル、2009年8月)
- 「現代日本のアジア外交と『東アジア共同体』」(韓国・啓明大学校日本学科創設20周年記念国際シンポジウム、大邱市、2007年3月16日)
- 「経済成長と自民党政治」(「日韓学術討論会—韓国現代史と日本戦後史」2009年4月18日、東京)
- 「国境問題—アジアとヨーロッパ」(韓国・嶺南大学校独島研究所特別講演会、大邱市、2006年11月24日)
- 「日本の経済成長—その条件と遺産」(筑波大学中央アジア連携センター開所記念 ウズベキスタン国立東洋学大学日本学科主催講演会、タシケント、2006年9月29日)
- [パネルディスカッション]「『幣原外交』の時代」(外務省外交史料館主催、2006年9月15日、東京)
- 「情報公開と日本現代史研究」(台湾・国立政治大学日本学科講演会、台北、2005年11月8日)
- ‘The Japanese Army in the decision making process of military policy in 1930s’, prepared for *The International Conference on the Military History of Sino-Japanese War (1931–1945)*, sponsored by Harvard University (January 2004), Hawaii
- ‘The Bereaved Families’ Association (*Izokukai*) and its Memories of World War II: Beyond Memories war’, *International Conference on the memories of Asia and the Pacific War*, sponsored by International University of Japan, (June 2002), Tokyo.
- ‘Creating a regional hegemony, Japan’s quest for new order’, prepared for *the Conference on the Pan-Asianism in Modern Japanese History: Colonialism, Regionalism and borders*, supported by the German Institute for Japanese Study, (November, 2002), Tokyo International Exchange Center.
- ‘Japan’s New Deal for Asia : Bureaucratic Influence over Asia Policy in 1943 and Beyond’, prepared for *The 1999 Annual meeting of Association for Asian Studies*, (March 1999), Boston.
- 「吉田茂の親英・親米について」(吉田茂国際基金主催、吉田茂没後30周年記念シンポジウム、1997年11月7日、東京)
- 「戦時外交と戦後構想」(太平洋戦争終結50周年国際学術会議「終戦とアジア太平洋」、国際文化会館主催、1995年8月24日、静岡県伊東市)
- ‘Japanese Southward Advance and Her Rapprochement with the Soviet Union, 1931–1939’, prepared for *Conference on the Occasion of the 50th Anniversary of the Opening of the Second World War*, (Sept., 1989), Paris.
- 「真珠湾への道—再考」(太平洋戦争の再考察—開戦50周年国際会議、国際文化会館主催、山梨県山中湖、1991年11月14日)
- 「日本陸軍の中国認識」(盧溝橋事件50周年日中学術討論会、日中人文社会科学交流協会、1987年7月、東京・慶應義塾大学)

‘The Japanese and U.S. Responses to the Soviet Wartime Diplomacy: Confrontation and Cooperation among Japan, United States and the Soviet Union during the Second World War’, prepared for the *Workshop of the 1984 Military History Exchange Program between Japanese Ground Self-Defense Forces and U.S. Army* (May 1984), Tokyo

## 書評

- 「服部龍二著『日中歴史認識—「田中上奏文」をめぐる相剋』(『国際政治』166号、2011年8月)  
「『海のアジア』の戦後史：脱植民地化をめぐる攻防—宮城大蔵『戦後アジア秩序の模索と日本』を読んで」(『創文』474号、2005年4月)  
「明治立憲制のゆらぎと定着—伊藤之雄『立憲国家の確立と伊藤博文』・同『立憲国家と日露戦争』(『レヴァイアサン』34号、2004年4月)  
「倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』(『アジア経済』1999年10月)  
「森山優著『日米開戦の政治過程』(『国際政治』122号、1999年9月)  
「秦郁彦『盧溝橋事件の研究』『軍事史学』33巻3号、1997年12月)  
「後藤乾一著『近代日本と東南アジア』(『アジア研究』1996年1月)  
「馬場明著『日露戦後の日中関係—共存共栄主義の破綻』(『史学雑誌』104編2号、1995年2月)  
「加藤陽子『模索する1930年代—日米関係と陸軍中堅層』(『軍事史学』30巻2号、1994年9月)  
「Japan’s Southward Advance and Australia/Henry P. Frei」(『国際政治』102号、1993年2月)  
「江口圭一『十五年戦争小史』(『史学雑誌』96編9号、1987年9月)  
「『日米開戦外交の研究』須藤真志」(『軍事史学』23巻1号、1987年6月)  
「Andreas Hillgruber, translated by W. C. Kirby, *Germany and the Two World Wars*, 1981」(『新防衛論集』1982年12月)  
「栗原健編『佐藤尚武の面目』原書房」(『軍事史学』18巻2号、1982年9月)  
「William F. Morton, *Tanaka Giichi and Japan’s China Policy*, 1980」(『国際政治』71号、1982年8月)

## その他

- 「細谷教授と外務省へのまなざし」(『外交史料館報』25号、2012年3月)  
「巻頭史論 なぜ、開戦を迎えたのか」(『歴史読本』2012年1月号)  
「震災復興と後藤新平」(月刊『機』229号、2011年4月)  
「座談会」「外交アーカイヴの役割について」(『外交史料館報』24号、2011年3月)  
「細川論文鑑定書(2002年3月10日)」(横浜事件・再審裁判＝記録/資料刊行会『ドキュメント横浜事件』高文研、2011年)  
「日中歴史共同研究をふりかえって」(『三田評論』1137号、2010年8月)  
「市ヶ谷台の戦史部と戦史叢書」(『戦史研究年報』13号、2010年3月)  
「巻頭言」「多様化する日中戦争研究」(軍事史学会編『日中戦争再論』錦正社、2008年)  
「パネルディスカッション 幣原外交の時代」(『外交史料館報』21号、2007年12月)  
「巻頭言」「情報公開・公文書館・開示請求」(JAIR Newsletter No.104、日本国際政治学会、2005年1月)  
「インタビュー」細谷千博「シベリア出兵研究の今日的意義」(『外交史料館報』19号、2005年9月)  
「自衛隊はどう創設されたか」(『文藝春秋』2004年1月号)  
「座談会」「論評・『日本外交の過誤』について」(『外交史料館報』17号、2003年9月)

- 「エリート軍人がなぜ負け戦を始めたか」（『文藝春秋』2003年10月号）
- 「国際共同研究・日中戦争（1931-1945）について」（『国際問題』501号、2001年12月）
- 「ヒアリング速記録・波多野澄雄」（平成11-12年度科学研究費〔基盤研究B-1〕研究成果報告書「日本近代史料情報機関設立の具体化に関する研究」代表・伊藤隆、所収、2001年3月）
- 「日本海軍の政治力」（『歴史と旅』26巻13号、1999年8月号）
- 「高坂正堯『古典外交の成熟と崩壊』（花井等編『名著にまなぶ国際関係論』有斐閣、1999年）
- 「解説」（フランク・コワルスキー『日本再軍備くシリーズ戦後史の証言—占領と講和—⑧』中央公論新社、1999年）
- 「二つの『アジア解放論』（東京大学出版会『UP』254号、1997年12月）
- 「講演録」「戦時宰相としての東條英機」（『国学院大学日本文化研究所報』198号、1997年9月）
- 「戦時外交と戦後構想、1941-1945」（慶応義塾大学博士論文、1996年10月）
- 「意見書」（教科書検定訴訟を支援する全国連絡会編『沖縄戦・草莽隊・歴史教育：家永教科書裁判第3次訴訟 高裁編 第3巻』民衆社、1996年）
- 「会議録」波多野・国際文化会館編『太平洋戦争の再考察 開戦50周年国際会議（山中湖会議）会議録』（1994年）
- 「1991年の歴史学界—回顧と展望 日本 近現代四」（滝口剛と共著）（『史学雑誌』99巻5号、1992年5月）
- 「[解題]『高橋是清と国際金融』に寄せて」（藤村欽市朗『高橋是清と国際金融』下、福武書店、1992年）
- 「昭和天皇『独白録』の逆説」（『諸君！』1991年1月号）
- 「1989年の歴史学界—回顧と展望 日本 近現代—」（『史学雑誌』101巻5号、1990年5月）
- 「憲政100年 比較 帝国憲法と日本国憲法」（大原康男と対談）（『諸君！』1989年6月号）
- 「外交官の肖像 須磨弥吉郎」（『外交フォーラム』1988年10月創刊号）
- 「東條英機は主戦論者だったか」（『諸君！』1988年1月号）
- 「[解題]『島田教授以後』の満州事変研究」（日本国際政治学会編『太平洋戦争への道 第2巻 満州事変』復刻版、朝日新聞社、1987年）

#### 学内誌記事

- 「大学が大学であるために」（『筑波フォーラム』69号、2005年3月）
- 「前号を読んで—大学人の市民性ということ」（『筑波フォーラム』53号、1999年6月）
- 「秋野豊さんを悼む」（『筑波法政』25号、1998年12月）
- 「パブリック・ヒストリアンの悲哀」（『筑波フォーラム』48号、1997年11月）

（以上2012年3月現在）